様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２９ 日現在

機関番号：１７５０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2013
課題番号：２３６５３１３０

研究課題名（和文）ソーシャルメディアを介したネットワーク・コミュニティ形成に関する社会学的研究

研究課題名（英文）The sociological study about network community formation through social media

研究代表者
豊島　慎一郎（TOYOSHIMA, Shinichiro）

大分大学・経済学部・准教授

研究者番号：６０３１５３１４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　900,000円、（間接経費）　270,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は，人々がソーシャルメディアを介してネットワーク・コミュニティを形成するプロセスを検討することである．本研究では，あるインターネット配信番組(音楽番組)の事例として，番組制作者と視聴者の関係について調査した．その結果，下記の調査により貴重なデータを入手することができた．
a)番組制作者へのインタビューと制作現場の現地調査の実施(年数回)．b)参与観察：番組の視聴者数や参加状況に関するデータ収集(ほぼ毎週．2013～15年)．c)視聴者13名を対象としたグループ・インタビューの実施(2013年)．d)ソーシャルメディアに関する質問紙調査(回答者：大学生110名)の実施(2013年)．

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to examine the process that people form network communities through social media. This study investigates the relationship of program creators and viewers in a case of a live webcast (live music program). As a result, valuable data was able to be acquired by the following investigations.
a) Interview with program creators and fieldwork about a live webcast (several times a year. 2013-15). b) Participant observation: Viewership and interaction between program creators and viewers in the live music program (nearly every week. 2013-15). c) Group interview with 13 viewers (2013). d) Questionnaire about social media (respondents: 110 undergraduates) (2013).

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：コミュニケーション・情報・メディア　ソーシャルメディア

１．研究開始当初の背景

「Ustream」や「Twitter」に代表される新しいソーシャルメディアが社会的な広がりを見せたのはここ数年であり（本研究で取り上げる「Ustream」は 2007 年に一般サービス開始)、国内外を問わず、研究自体、着手されたばかりといった現状にある。

国内では、情報通信学会、人工知能学会、電子情報通信学会といった情報工学系の学会を中心に、利用状況の量的分析やシステム分析等の研究成果が報告されている。また、財団法人ハイパーネットワーク研究所やデジタルハリウッド大学院ソーシャルメディア研究会は、実践的な観点から地域活性化やビジネス・モデルの構築等について模索しているところである。研究代表者が属する社会学の分野においても同様に研究途上の状況にあり、本研究は新規的かつ挑戦的な取組だと位置づけられる。

また、研究代表者は、1999 年より大分県の地域情報化に関する調査研究に取り組んでおり、大分県臼杵市における地域情報化と住民意識に関する調査研究（2002-03 年度科研費研究）や、「coara」に代表されるボランタリーな市民による地域ネットワークに関する調査研究（個人及び民間助成研究）等を行ってきた。その結果、新しい電子メディア/ネットワークの導入が必ずしも地域住民主体のコミュニティ形成や社会参加の促進につながらないことを実証的に明らかにした。

こうした成果を踏まえ、新しいソーシャルメディアの活用について自らの生活を賭けて試行錯誤している人間の「生の現場」を深く掘り下げて調べることにより、情報社会のもつ可能性と限界について具体的に検討できるのではないか、という問題意識が生まれ、本研究の着想に至った。

２．研究の目的

本研究は、ソーシャルメディアを介したコミュニケーションに基づくネットワーク・コミュニティの形成過程について、社会学の視点から明らかにすることを目的とする。

新しいソーシャルメディアの一つである「ライブ・インタラクティブ・ブロードキャスト・プラットフォーム」(Ustream)によるライブ番組制作・配信を音楽活動の一環として行っている、プロ・ミュージシャン A 氏(仮名)のメディア実践を事例として取り上げた。

調査対象者である A 氏は、現行の音楽プロダクションとは異なり、個人主体の「草の根的な」音楽ビジネスの確立を目指して、興行的に成功と失敗を繰り返しながら、ライブ活動を中心に音楽活動を続けている。実際、ライブ番組制作については「Ustream」の他に、オンライン上のチケット購入システム(izonn)及びオンライン決算システム(paypal)を活用した、いわゆる「投げ銭システム」を導入しており、ソーシャルメディアによる音楽ビジネス・モデルの構築に試行錯誤している最中である。

現在、デジタル音楽の配信サービスに見られるように、音楽を取り巻く情報化が急速に進展していくなか、単に流行や先進性を追いかけるのではなく、こうした個別具体的な実践事例、いわば「生の現場」に深く入り込んで接近することは、情報社会における人々の生活や生き方、人と人との絆のあり方を問い直すための貴重なデータを獲得することにつながり、そこに本研究の学術的な意義があると考えられる。そして、その成果は、個人生活の充実や社会参加の促進、ネットワーク・コミュニティ及び地域コミュニティの活性化、ビジネス・モデルの構築等に関わるメディア実践のあり方を探る上で、新しい視点や手掛かりを提示するものになると考えられる。

こうした問題意識に基づき、本研究では、実践者である A 氏をはじめ、視聴者へのインタビュー及び映像データの記録・収集を主とした現地調査による質的データの収集及び分析を行い、メディアを介したコミュニケーションやネットワーク・コミュニティ形成、今後の情報社会のあり方について考察する。

３．研究の方法

本研究の方法論的な特徴は、社会学分野の情報ネットワーク研究において主流である量的調査ではなく、インタビューや参与観察法等を用いた質的調査によって、メディアを介したコミュニケーションに基づくコミュニティ形成の「生の現場」に対して具体的にアプローチする点にある。

調査方法は、以下の通りである。

①　調査対象者(実践者 A 氏)へのインタビュー

A 氏に対して、A 氏自身のライフ・ヒストリーとともに、「Ustream」というソーシャルメディアを自らの音楽活動に活用しようとした経緯や周囲の反応、現状と課題等についてデータ収集を年数回実施した。

②　ライブ番組制作に関する現地調査・ネット調査

A 氏がライブ番組の配信を行っているライブハウス（東京都新宿区、兵庫県姫路市）において、「Ustream」を介して展開されるコミュニケーションの様子（A 氏は映像及び音声情報、視聴者は文字情報（主にチャット）でやりとり）やライブハウス内の観客の様子を、研究代表者（調査者）がライブに参加しながら観察するとともに、デジタルビデオカメラの使用により映像データとして記録した。

また、補助的な調査(ネット調査)として、研究代表者の自宅において、インターネットを通して映像データの記録や番組視聴者数などのデータ収集をほぼ毎週行った。

③　ライブ番組視聴者・関係者へのインタビ

ュー
　ライブ番組の中核的な視聴者（「Ustream」内のチャットへの参加頻度が高く、かつ実際にライブ会場に高い頻度で訪れる視聴者）に及び番組制作関係者対して、ソーシャルメディアを活用したA氏の音楽活動やA氏や他の視聴者とのコミュニケーションに関する意識、番組への参加動機等について、個別のインタビュー及びグループ・インタビューによりデータ収集を実施した。

④　ソーシャルメディアに関する大学生調査
　補助的な資料を得ることを目的として、2013年1月にA氏を大分大学に招き、学生を対象とした実践報告会（題目:「ソーシャルメディアと私の音楽活動について」）を開催し、受講生(110 名の大学生)を対象に自由回答方式の質問紙調査を実施した。

４．研究成果
　九州北部豪雨災害(2012年7月)の影響により研究期間を1年間延長せざるを得なかったが、その間に以下のように調査を重ね、分析に必要なデータを収集することができた。

・2011年度
(a)調査対象者(実践者A氏)及び関係者へのインタビュー
　2011年7月・12月・2月に東京都、2012年1月に姫路市で実施した。
(b)A氏のライフ・ヒストリーに関する現地調査
　2012年1月にA氏の出身地である姫路市においてフィールド・ワークを実施した。
(c)ネット配信に関する現地調査
　A氏、東京都内及び姫路市内のあるライブハウスのオーナー、観客の許可を得て、ライブやネット配信の様子を映像データとして記録した(実施時期は(a)と同じ)。
(d)ネット調査
　2011年7月から、毎週配信されているネット番組を映像データとして全て記録し、毎回の視聴者数も確認した。

・2012年度
(a)調査対象者(実践者A氏)及び関係者へのインタビュー
　2012年10月・2013年2月に東京都、2012年4月・2013年1月に姫路市で実施した。
(b)A氏のライフ・ヒストリーに関する現地調査
　2012年4月・2013年1月にA氏の出身地である姫路市においてフィールド・ワークを実施した。
(c)ネット配信に関する現地調査
　A氏、東京都内及び姫路市内のあるライブハウスのオーナー、観客の許可を得て、ライブやネット配信の様子を映像データとして記録した(実施時期は(a)と同じ)。
(d)ネット調査
　毎週配信されているネット番組を映像データとして全て記録し、毎回の視聴者数も確認した。
(e) ライブ番組の視聴者へのグループ・インタビュー
　2013年1月に、大分大学で中核的な視聴者 13 名に対しグループ・インタビューを行った。
(f) ソーシャルメディアに関する大学生調査
　2013年1月にA氏を大分大学に招き、110 名の大学生を対象とした実践報告会（題目:「ソーシャルメディアと私の音楽活動について」）を開催し、自由回答記述方式の質問紙調査を実施した。

・2013年度
(a)調査対象者(実践者A氏)及び関係者へのインタビュー
　2013年5月・12月、2014年2月・3月に東京都、2014年3月に京都市で実施した。
(b)ネット配信に関する現地調査
　2013年5月、12月に、A氏、東京都内のあるライブハウスのオーナー、観客の許可を得て、ライブやネット配信の様子を映像データとして記録した。
(c)ネット調査
　2014年3月末まで、毎週配信されているネット番組を映像データとしてほぼ全て記録し、毎回の視聴者数も確認した。

　本研究期間内では、挑戦的萌芽研究という性格上、できる限り多くのデータを収集する作業に専念したが、今後は補助的な調査を継続しつつ、データを精査し、学会報告及び論文執筆を行う予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
URL
http://www.ees.ec.oita-u.ac.jp/toyosima/

６．研究組織
(1)研究代表者
　豊島　慎一郎（代表）

　研究者番号：60315314

(2)研究分担者
　　(　　)

　研究者番号：

(3)連携研究者
　　(　　)

　研究者番号：